全体の基本コンセプト

遊歩道

- ●メインの遊歩道は、名鉄三河線の軌道が描いていた美しい鉄道カーブを表現し、鉄道があった歴史性が感じられるようにするとともに、鉄道カーブが描く景色の美しさを皆が楽しめるようにする。
- ●遊歩道の有効幅員は、歩行者と自転車が窮屈にならず、安心・安全に通行できるように4.0 mを確保。
- ●災害時には、緊急車両も走ることができ、防災機能を高める。
- ●遊歩道の美しいカーブを並木で視覚的に強調するため、基本的にカーブの外側に中木を列植し、倒木の被害を無くすとともに、隣接地への落ち葉等を考慮し常緑樹を配置。
- ●照明は、隣接地へ配慮し、省エネタイプの目線より低いものを設置。
- ●舗装材は、人に優しく、環境に負荷をかけず、維持管理コストの低い舗装。



[遊歩道部イメージ]

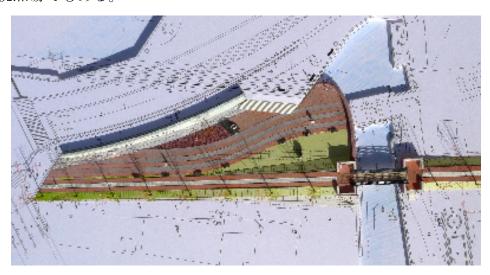


[4号公園(旧三河旭駅部分)の遊歩道部イメージ]

4つの広場部分の基本コンセプト

1号公園(塩とり橋北側)

- ●碧南駅側をスタートと考えれば、公園全体のエントランスとしての広場である。
- ●都市計画道路碧南高浜線とのレベル差を利用してできる全長約50mのカーブした壁 面には、鉄道を含めた碧南市の歴史を振り返るような、「言葉と写真」による情報を 提供。
- ●軌道をイメージさせる歩道の線形や舗装パターンに加え、鉄道があったことを記念 するモニュメントを設置。
- ●この公園全体を通じて唯一といえる橋が堀川に掛かる。堀川軸の景観を眺める重要 な視点場でもある。



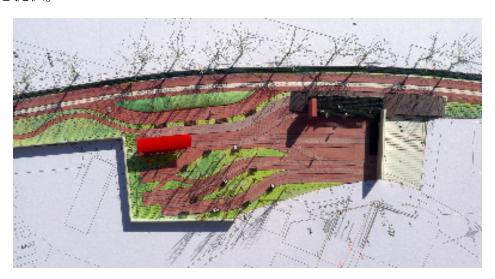
2号公園(旧玉津浦駅部分)

- ●4つの広場の中では最も規模が小さいが、海水浴場の名前のついた駅であり、市民 には思い出深い駅である。
- ●昔、貨物輸送の引き込み線の分岐点であったため、その軌道イメージをデザインに 取り入れ、休憩施設を取り入れたシェルターを設置。
- ●既設ホームを活かし、一部を階段状にして休憩ポイントとする。



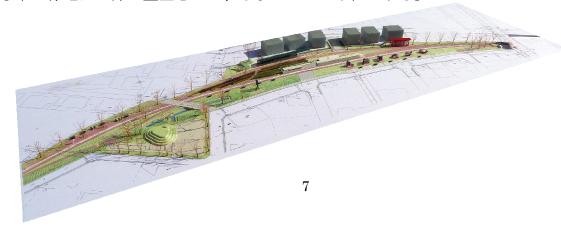
3号公園(旧棚尾駅部分)

- ●隣接工場の緑化(主にクスノキによる常緑樹)が作る緑の背景が立派であるので、 植栽を足すことで、緑陰を楽しむ緑豊かなイメージを創出。
- ●イベントの期待が大きかった棚尾広場では、既設ホームをステージの一部として活用。
- ●ホームにはレンガ作りの自立壁を立て、時計塔として、この広場の求心的な存在とする。
- ●広場の半分は緑陰とベンチで構成され、イベント開催時とは対照的な文化的な静け さを提供。



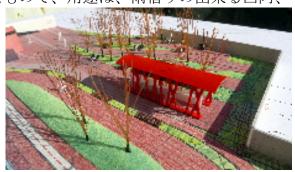
4号公園(旧三河旭駅部分)

- ●4つの広場の中では圧倒的に広い面積を持つ広場であるが、実際には平七緑地と駅の敷地が連続して出来た長い敷地で、様々な顔を持つ広場である。
- ●東西に長い敷地の南側は特に子供が遊ぶプレイゾーンとし、北側は比較的落着いた感じのゾーンとして配置。
- ●メインのホームは、北側と遊具の並ぶ南側をつなぐ場所であり、デッキで休憩できるビッグファニチャーとする。
- ●遊具のデザインに関しては、安全性や耐久性を考慮し、地場産業(鋳造業)の協力を元に、オリジナルのデザインとして、個性豊かな子供たちの発想力にうったえかける。
- ●かつて駅の北側から来ると道の突き当たりに三河旭駅はあり、その記憶を呼び起こすため、突き当たるような公園へのアプローチとする。
- ●平七緑地は一部に盛土をして、ちょっとした小山にする。



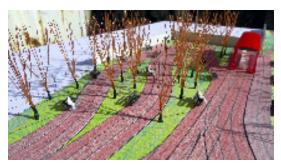
特徴的なデザインアイテム

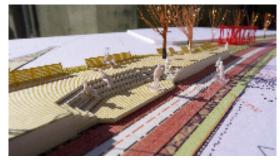
●シェルター:かつて走っていた名鉄三河線の車両の残像をイメージし、実際に走っ ていた最も小規模の車両規格(キハ10系)の寸法を元に、屋根と柱だけのシェル ターをデザインしたもので、用途は、雨宿りの出来る四阿、トイレなど。



[3号公園(旧棚尾駅部分)イメージ]

■ベンチ:ベンチのデザインは足やフレーム部分を鋳鉄製(地場産業活用)とし、座 面は木製や樹脂製などを使い分け、園路に沿って緑陰部やホーム等に配置。





[3号公園(旧棚尾駅部分)イメージ] [4号公園(旧三河旭駅部分)イメージ]

●遊具:遊具が置かれるのは主に4号公園(旧三河旭駅部分)である。子供が遊んで いなければ彫刻にしか見えない、鋳鉄製のジャングルジムをメインとして配置し、 プレイゾーンを演出。



[4号公園(旧三河旭駅部分)イメージ]

●その他:ワークショップでは、ビオトープ・カフェ・市民農園・市民花壇などを設 置したらどうかという意見もありました。今後進める中で、担い手や管理していた だける方が出てくれば、設置について協議をしていくこととして、とりまとめを行 っている。